

### 黒松沢支流無名沢 1992年9月13日

タケナグラ沢の遡行を終え、下降路として標高1100m付近で黒松沢と合流する無名の支流を選んだ。10時10分、下降開始。尾根のすぐ下が源頭の湿原。ミズバショウやメタカラコウなどが生育していた。この支流は平凡である。小滝を4つかけただけで、黒松沢の本流に達してしまっただけ。所要時間50分余りであった。

(記・

[タイム] 下降開始(10:10)→黒松沢本流出合(11:00)→小豆温泉(12:30)

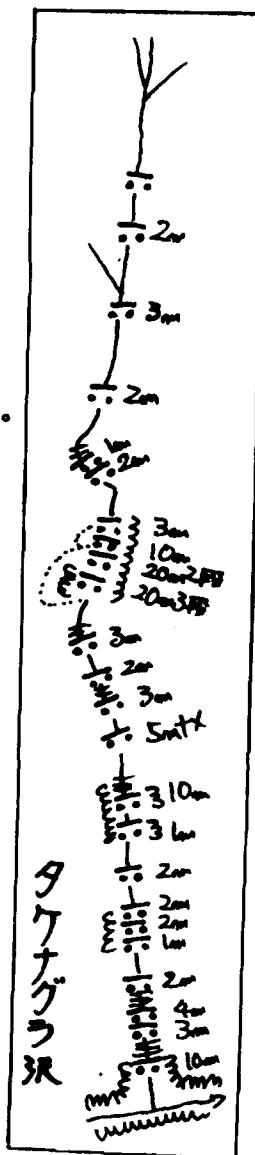
### 伊南川支流タケナグラ沢

1992年9月13日

対岸から眺めたタケナグラ沢は、急激に高度を稼いでいる。きっと滝があると話し合ったものだが、予想通り、滝がいくつも出てきた。

7時45分、遡行開始。伊南川を渡渉してタケナグラ沢に入る。すぐ10m。右側から直登するが、途中一部シャワーとなった。岩が花崗岩であるため、フリクションがよくきき、適度にスタンスもあって、登りやすい。出だしの滝をクリアすると、今度は急傾斜の沢筋となり、小滝が次々とかかるようになった。そしてまた10m。下部は水流をまたぐようにして登り、あとは左岸を直登する。奈良部君が右岸を直登したが、微妙なスタンスを利用しなければならなかった。

やがて両岸に岩場がそそりたち、20m 2段滝。下段は右岸を直登。一部流木を利用する。上段も右岸を中程まで登ったが、上部がちょっときつく、安全を考えて右岸を捲くこととする。右岸の岩場を越えた所は、もう一つ上の20m 2段滝の中央部で、そのまま2つの滝を一緒に捲く。その先にもう一



つ10m滝があり、これも右岸を捲いた。

核心部はこれで終了である。あとは傾斜も緩やかとなる。10時、遡行終了とし、左岸の尾根に上がる。

[タイム] タケナグラ沢出合(7:45)→遡行終了(10:00)

### 尾瀬・高石沢 1992年10月4日

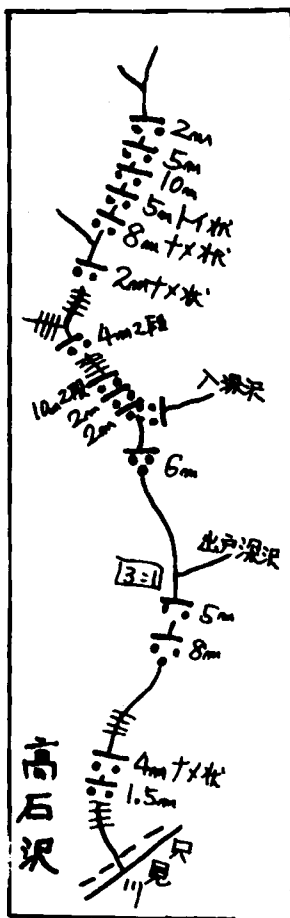
御池の駐車場で仮眠したのだが、朝起きてみると駐車場は満杯だった。折しも紅葉の季節である。朝食をすませ、小沢平へ移動。車を置き、徒歩20分ほどで下降予定のトクサ沢出合。さらに10分で、目的の高石沢出合到着。

高石沢はずっと川原が続く。ほぼ3時間半で、出戸深沢の出合に到着する。水量比はおよそ3:1。ここまで、滝が4つだけだった。これからに期待して前進する。

6mの滝を越えると、入深沢が滝となって入る。このあたりから、両岸が狭まり、倒木が多くなってくる。スケールこそ大きくないが、滝が続いて面白い。8mはシャワー、5mのトイ状滝は勇気のある人(濡れることが気にならない人)だけが沢筋を進む。10m、5mは何なくクリア。このあたりまでが核心部で、あとは川原状になる。道路からのゴミが目立ってきたところで遡行終了、道路をめざす。

予想されたとはいえ、下流部に変化がなかったのが残念であった。しかし、部分的には滝が続いて、楽しい沢登りとなった。

(記



[タイム] 小沢平(6:25)→トクサ平出合(6:40)→高石沢出合(6:50)→出戸深沢出合(10:20)→入深沢出合(11:20)→車道(13:00)